

就職後9ヶ月経過した卒業生による就職前教育の評価と 辛い時期の対処方法

板橋 和子 成田みゆき 中根 洋子
天野 雅美 山本 君子

東京医科大学看護専門学校

【要旨】 本研究の目的は、3月に実施した「既卒者からのアドバイス」と「看護技術自主練習」が就職後9ヶ月経過した時点で役立ったと感じているか、就職後の辛い時期と実際の対処法について明らかにすることである。結果は、就職後に「既卒者からのアドバイス」を思い出したことがある者は40名(70%)、「看護技術自主練習」が就職後に役立った者は35名(78%)であった。就職後の辛い時期は4~6月が多く、実際の対処法は他者からのサポートを受けた者が最も多かった。またリアリティショックに影響を与える5要因の内、心理的要因(15.4点)が最も高かった。

I. はじめに

ここ数年、職場に適応できず1年未満で退職してしまう卒業生が増加している。就職への心構えや準備が十分されないまま就職し、仕事に適応できないことも、その要因の一つと考えられる。掘ら¹⁾は、新人看護師の職場適応に影響する要因を、心理的・社会的・対人的・技術的・身体的要因の5つに分類し、就職当初は技術的要因が強く影響すると報告している。本校の臨地実習は11月に終了するので、3年生は就職まで5ヶ月あまり臨床から離れてしまう。就職前に看護技術の練習を実施し、基本的知識と技術を想起させることは、就職後の看護技術の習得をスムーズにするだけでなく、就職への意識を高め、心構えや準備に役立つのではないかと考えた。そこで卒業生への就職の支援として、既卒者からのアドバイスと、看護技術の自主練習の場を提供した。前回のアンケート調査の結果²⁾では、これらが就職への心構えや準備に効果的であった。掘ら¹⁾は「職場適応には約9ヶ月の期間を要する」と述べていることから、今回9ヶ月経過した段階で、再度アンケート調査を行った。就職前教育として行った「既卒者からのアドバイス」と「看護技術自主練習」が、

具体的にどのような場面において効果的であったか、就職後の辛い時期と実際の対処法などについて調査した。就職前教育については施設からの報告はされているが、卒業時の学校での取り組みについての報告はまだ少ない。これらを研究することにより、職場適応を促す学校のサポート体制について再考できる。また研究の結果から、臨床と協力し職場適応を促していくことの一助となる。このことから本研究を行う意義があると考えられる。

II. 目 的

1. 3月に実施した「既卒者からのアドバイス」が就職後に役立ったか否かを明らかにする。
2. 「看護技術自主練習」が就職後に役立ったか否かを明らかにする。
3. 就職後の辛い時期と実際の対処法を明らかにする。
4. 就職後9ヶ月を経過した時点でのリアリティショックの要因を明らかにする。

用語の操作的定義

1. 就職準備：卒業生が就職するにあたっての心構

えや、臨床に活用できる参考書などを前もって整えることである。

2. 就職前教育：全カリキュラムを終了し、就職するまでの期間に看護学校が行う意図的な働きかけである。

3. 卒業生：全カリキュラムを終了して就職するまでの期間にある学生である。

4. 職場適応：自己卑下、自己否定が無く、仕事場から逃避せず適当な対処ができている状態である。

5. リアリティショック：新人看護師が就職した当初に体験する理想と現実のギャップから生じた負の衝撃である。

IV. 方 法

1. 対象者

2002年3月31日に本校を卒業し、(1箇所)特定機能病院に就職した62名の内、調査に同意の得られた59名とした。

2. 就職前教育の概要²⁾

1) 看護技術練習

(1) 日程：平成2002年3月25, 26, 28, 29日の4日間。

(2) 項目：① 医療事故につながりやすい項目として、経口与薬、筋肉内注射、静脈内点滴注射の準備と管理 ② 就職後すぐに実践する看護技術として、経口与薬、筋肉内注射、静脈内点滴注射の準備と管理、採血、無菌操作、酸素吸入 ③ 身体に直接針を刺したり、薬液を注入したり、器具を挿入する看護技術として、洗腸、筋肉内注射、採血、吸引 ④ 比較的困難だと思われる日常生活行動の援助技術として、点滴やドレーンが挿入されている患者の寝衣交換、臥床患者の洗髪などの状況を設定した。

(3) 参加方法：事前に実習室使用申込書を記入してもらい、実習室で、希望者が自主的に実施した。

(4) 教員の支援方法：アドバイザーとして必ず一名は実習室に待機し、卒業生からの質問に答えたり、実践場面を示したりした。また卒業生からの質問を契機に教員の臨床経験を伝えた。

2) 既卒者からのアドバイス

(1) 日程：2002年3月2日

(2) 方法：就職後11ヶ月目の卒業生と就職後6年目の卒業生がそれぞれ20~30分間アドバイスをを行い、質疑応答の時間は30分とした。就職後11ヶ月目の卒業生は、特定機能病院の泌尿器科病棟で働いている

看護師で、アドバイス内容は就職に向けての準備、辛かった時期を乗り越えた方法、就職後に経験した看護の喜びについてであった。就職後6年目の卒業生は特定機能病院の整形外科病棟で5年間勤務し、その間にプリセプターナースを経験しており、アドバイスした時点では他施設の治験看護師であった。アドバイス内容は新人看護師時代に経験したこと、指導にあたり感じたことや期待することであった。

3. 調査期間

2002年12月20日~2003年1月24日

4. 調査方法

調査内容は属性として年齢、一般学歴、看護学校入学前の就職経験の有無とした。自作の質問紙の内容は、「既卒者からのアドバイス」「看護技術自主練習」が就職後に役立ったか、就職後の辛い時期と実際の対処法とした。さらに、リアリティショックに影響を与える要因として、堀ら¹⁾の研究で作成された心理的・社会的・対人的・技術的・身体的の5要因の計25項目よりなる質問紙を用いた。2種類の質問紙は、全て無記名方式とし(資料1)、留置法とした。

5. 分析方法

「既卒者からのアドバイス」「看護技術自主練習」が就職後に役立ったか、就職後の辛い時期と実際の対処法は何か、については単純集計した。自由記載内容については、意味・内容が変わらないように要約し、類似性・相違性に従い分類した。リアリティショックに影響を与える5要因25項目は点数化し、単純集計した。4段階評定法を用い、「そう思う」~「思わない」を4~1点とした。

6. 倫理的配慮

データは全てコード化し、統計処理を行った。自由記載についても個人が特定される事の無いようにした。さらに本研究以外に使用しないことを研究依頼書に明記した。

V. 結 果

調査に協力の得られた59名の内、有効回答数57名で、有効回答率96.6%であった。

1. 対象の属性

年齢は、20-24歳が48名(84%)、25-29歳が8名(14%)、30-34歳が1名(2%)であった(表1)。

一般学歴は、高校卒が37名(64%)、短大卒が3名(5%)、大学卒が2名(4%)、専門学校卒が2名(4%)、無回答13名(23%)であった(表2)。

表1 年齢構成

年齢	人数 (%)
20-24 歳	48 (84)
25-29 歳	8 (14)
30-34 歳	1 (2)

表2 看護学校入学前の一般学歴

一般学歴	人数 (%)
高校卒	37 (64)
短大卒	3 (5)
大学卒	2 (4)
専門学校卒	2 (4)
無回答	13 (23)

表3 看護学校入学前の就職経験の有無

就職経験の有無	年数	人数
あり	3年	2
	4年	1
	8年	1
なし		47
無回答		6

看護学校入学前の就業経験の有無では「ない」と答えた者は47名(82%),「あり」と答えた者が4名(7%),無回答は6名(11%)であった。「あり」と答えた者の就業経験年数は、3年が2名、4年が1名、8年が1名であった(表3)。

2. 既卒者からのアドバイスの効果

就職後に「既卒者からのアドバイス」を思い出したことがある者は40名(70%),ない者は16名(28%),無回答1名(2%)であった(図1)。

実際に思い出した場面については自由記載で、きつ

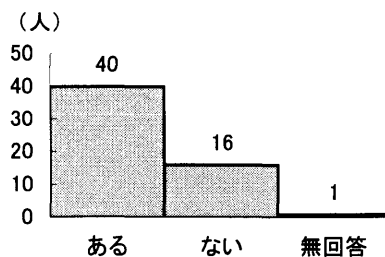


図1 既卒者からのアドバイスを思い出した n=57

いことを言われた時14名、疲れていた時13名、何らかの失敗をした時11名、情けなくなった時6名、患者が喜んだ時3名、患者に励まされた時・振り返りの時・勉強不足と感じた時、各1名であった。

また「既卒者からのアドバイス」を思い出した時に感じたことについては自由記載で、先輩の言ったとおりだと思った21名、また頑張ろうと思った17名、先輩の言っていた事は実際とは違うと思った5名、先輩のように頑張れないと思った2名、先輩の言ったとおりの部分と違う部分との両方があったと答えた者が1名であった。

3. 看護技術自主練習の就職後の効果

就職をするにあたって「自主技術練習」に参加した者は45名(79%),しなかった者は12名(21%)であった(図2)。

参加した者の内、今振り返ってみて就職への意識が高まり心構えや準備に役立った者は42名(93%),役立たなかった者は3名(7%)であった(図3)。

また、就職後に役立った者は35名(78%),役立たなかった者は10名(22%)であった(図4)。

役立った場面は自由記載で、その主な内容は、病棟オリエンテーション時、初心に戻る時などであった。役立った自主技術練習の項目は複数回答で、注射(筋肉内注射・点滴静脈内注射)が30名、採血が30名、吸引が13名、無菌操作が11名、寝衣交換が10名、洗髪が3名、酸素吸入が2名、経口与薬が1名であった。

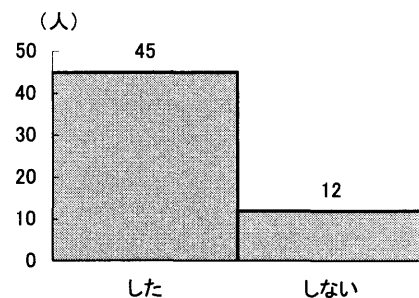


図2 自主練習への参加 n=57

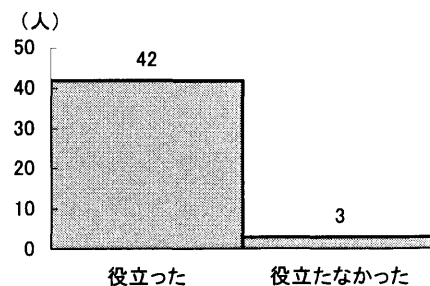


図3 看護技術練習が就職準備に役立った n=45

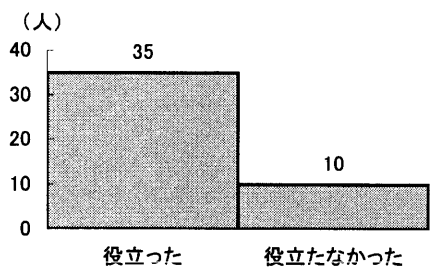


図4 看護技術練習が就職後に役立った n=45

もっと練習しておけば良かったと答えた技術は自由記載で、点滴静脈内注射の一項目であった。企画しなかった項目については膀胱留置カテーテル、一時的導尿、IVH、心電図、皮下注射、浣腸、排便、胃管からの内服、身体の観察、経管栄養、低圧持続吸引、坐薬挿入、輸液ポンプについての項目であった。

参加しなかった理由については自由記載で、日程が合わなかった者は8名、就職してから覚えればよいと思った者は3名、練習したい項目が無かった者は2名、できると思った者は1名、自分が配属希望している科ではあまり必要ないと考えた者は1名であった。日程が合わなかったと答えた者は、3月下旬や、土・日曜日を希望していた。参加しなかった者で、参加しておけば良かったと就職後に思った者は3名、思わなかった者は7名、無回答は2名であった。参加しておけば良かったと思った理由は自由記載で、復習になる、練習しておくことが良い、知識の確認ができる、であった。参加しなくても良かったと思った理由は、練

習内容と実際は違う、看護技術に困ったと感じたことがない、就職してから練習できると思った、であった。

4. 就職後の辛い時期と実際の対処法

就職後に日常生活援助や、頻度の高い診療に伴う援助技術について困らなくなった時期は、9月が10名(18%)、8月が8名(15%)、10月が8名(15%)、7月が6名(11%)、12月が5名(9%)、11月が4名(7%)、5月が1名(2%)、6月が1名(2%)であり、今もまだ困っている者は12名(21%)であった(図5)。

就職後に理想と現実のギャップを体験し、衝撃を受けたことがあった者は46名(81%)、無かった者は11名(19%)であった(図6)。

衝撃を受けた具体的場面は自由記載で、受持ち患者が多くなり十分に関われない、責任の重さ、業務の多忙さ、患者・家族との関係性、自己の未熟さ、患者の死亡、求められる看護の質の高さ、事故を起こした、プライベートな時間がない、科の特殊性、同僚の幼さであった。

衝撃を受けた時期は複数回答で、5月が27名、4月が25名、6月が19名、9月が13名、7月が12名、8月が12名、10月が8名、11月が7名、12月が7名であった。

衝撃を受けた時の対処法としては複数回答で、他者からサポートを受けた者が30名、自分自身で努力した者が12名、相談した者が5名、仕方ないと諦めた、我慢した、泣いた、同期と飲みに行つて愚痴を言い合った、気にしないようにした、今も対処できていな

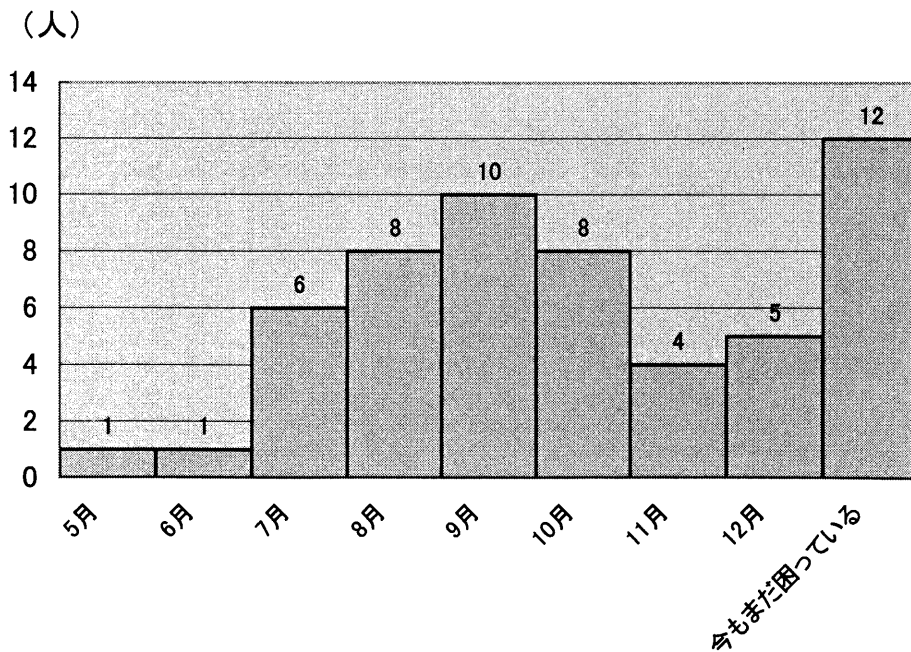


図5 就職後困らなくなった時期

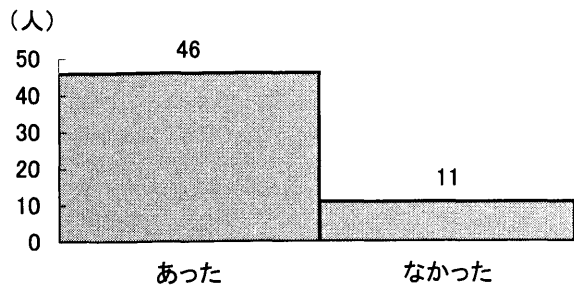


図6 理想と現実のギャップを体験し衝撃を受けた n=57

いは各1名であった。サポートしてくれた人は複数回答で、プリセプターナースが18名、同期が16名、プリセプターナース以外の先輩が10名、友人が10名、指導係が6名、家族が6名、看護師長が5名、主任が4名、教員が3名、医師が1名であった。

5. リアリティショックに影響を与える要因

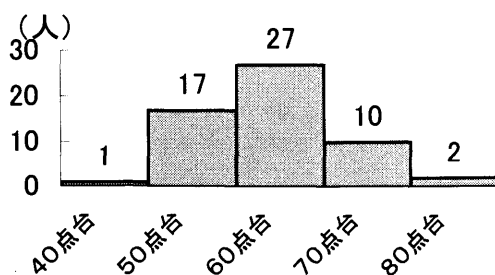
心理的・社会的・対人的・技術的・身体的の5要因25項目の合計得点は、40点台が1名(2%)、50点台が17名(30%)、60点台が27名(48%)、70点台が10名(18%)、80点台が2名(4%)であった(図7)。合計得点で最も低かった者は44点、最高得点は81点であった。

各要因の平均点は、心理的要因15.4(SD2.1)、身体的要因13.2(SD2.8)、社会的要因12.2(SD2.3)、対人的要因11.6(SD1.7)、技術的要因11.5(SD1.9)、であった。

VI. 考 察

1. 既卒者からのアドバイスの就職後の効果

70%の者は、就職後に既卒者からのアドバイスを思い出している。精神的・身体的に辛いときに、アドバイスを思い出していることから、困難を乗り越えるための励みになっていると考えられる。自分の期待する看護師像に努力しても近づけない時、多忙な業務や、人間関係に疲れた時、辛い心理状態になっている。そのような時に、既卒者からのアドバイスを思い出することで、現実の厳しさを受け入れながら、前向きに物事

図7 リアリティショックの影響を与える要因¹⁾合計得点 n=57

を考えられるようになっていたと思われる。その一方で、先輩の言っていることと現実が違う、先輩のように頑張れないと答えている卒業生もいるが、これは既卒者の体験談を思い出し、自分の体験と比較しながら、現実を受け止め、対応しようとしている結果と思われる。これらのことから既卒者からのアドバイスは就職後の職場適応に効果的であったと考えられる。

2. 看護技術自主練習の就職後の効果

78%の者は、看護技術自主練習が就職後に役立ったと感じている。特に筋肉内注射・点滴静脈内注射、採血、吸引、無菌操作などの診療に伴う援助技術の項目について役立ったと答えている者が多かった。これらの項目は、「臨地実習においてほとんど経験しない上、患者に少なからず苦痛を与える看護技術である。その苦痛の大小は看護師の手法の上手・下手に関わっているので新卒看護師にとって困った看護技術」と吉本³⁾が述べている項目である。具体的な状況設定により、看護場面を想起しながら練習することは、就職後の技術の習得に効果があったと考えられる。

参加したかったのに日程が合わずに参加できなかった者もいたことから、今後は提示時期や、期間等を検討していく必要がある。

3. 卒業後の辛い時期と実際の対処法

46名(81%)の新人看護師は、理想と現実のギャップを体験し衝撃を受けていた。

衝撃を受けた時期は、5月が最も多く、次いで4月、6月であった。この時期は先輩と一緒に勤務が外れ、独り立ちが始まるころである。学生時代は身近にいる教員や指導者から、就職直後はプリセプターナースからそれぞれサポートを受けていたが、それがなくなり不安や戸惑いが強くなったことから、衝撃を受けたと感じる者が多かったのではないかと考えられる。

衝撃を受けたと感じた具体的内容は、受持ち患者が多くなり十分に関われない、責任の重さ、業務の多忙さ、患者・家族との関係性、自己の未熟さなどをあげていた。これらの内容は、芳賀ら⁴⁾の行った「入職して一番ショックだったこと」の調査結果内容とほぼ一致している。このことから新人看護師は同じようなりアリティショックを経験するものといえる。

衝撃を受けたときの対処法としては、他者からサポートを受けた者が最も多かった。サポートしてくれた人は、プリセプターナース、同期の看護師、プリセプターナース以外の先輩看護師の順であった。新人看護師にとって彼らが身近にいるということ、また共に

看護を行っている仲間であるため、悩みや思いを素直に表出でき、支えになっていたと考えられる。

就職先が実習病院であるため、教員が卒業生と会う機会も多い。教員はその機会が卒業生の心理的サポートとなっていることを自覚し、受容的な態度や表情、声かけなどを大切にしていく必要がある。

4. リアリティショックに影響を与える要因

今回の調査では、各要因の平均点が、心理的要因 15.4 (SD2.1), 身体的要因 13.2 (SD2.8), 社会的要因 12.2 (SD2.3), 对人的要因 11.6 (SD1.7), 技術的要因 11.5 (SD1.9) であり、心理的要因が最も高く、技術的要因がもっとも低かった。

堀ら¹⁾は「職場適応に影響する要因の中では、就職当初は技術的要因が強く影響しているが、経験やトレーニングにより確実に自信が持て、肯定的になる。」と述べている。このことは今回の調査と一致している。就職前に行なう看護技術自主練習は、リアリティショックに影響を与える技術的要因を緩和することができると考える。また堀ら「心理的要因は時期を追うごとに否定的になっており、リアリティショックを長引かせる要因になっている²⁾」と述べている。堀らは7月、10月、1月の3回に渡って調査を行なっている。今回の調査結果では心理的要因が最も高かったが、1回だけの調査であるため、時期的な比較はできない。今後は心理的要因に影響を与える内容をさらに分析し、具体的な対応策を考えていくことが課題である。

VII. おわりに

今回の研究によって、「既卒者からのアドバイス」「看護技術自主練習」は、就職後9ヶ月経過した時点で役立っていた事が明らかになった。

教員は就職前教育を継続すると共に、卒業後も心理的サポートができる関係をつくるなど、職場適応を促す関わりが必要である。そのためにも、さらに臨床側との協力が必要と考える。

本研究は、調査対象が本校における1学年に限定されていることが限界である。調査方法を検討し、継続していきたい。

今回のアンケートにご協力を頂いた皆さまに心より感謝申し上げます。

尚、リアリティショックに影響を与える要因³⁾の調査表の本研究への使用については堀百合子先生に承諾を得ている。

参考文献

- 堀百合子, 西川ひとみ他: 新カリキュラム卒業生の職場への適応過程: リアリティショックの程度とそれを左右する要因の経時的变化. 日本看護学会集録 (看護教育), **27**, 52-55, 1996.
- 板橋和子, 成田みゆき他: 卒業前教育についての卒業生からの評価: 「既卒者からのアドバイス」と「看護技術練習」を試みて. 東京医科大学看護専門学校紀要, **13**(1), 31-37, 2003.
- 吉本知恵: 新卒看護師が就職当初に困った看護技術: インタビューを通して. 日本看護学会論文集 (看護教育), **33**, 27-29, 2002.
- 芳賀久美代, 鈴木幸子他: 新卒看護婦のリアリティショック: 病棟の特殊性によるショックの程度と要因の違い. 日本看護学会論文集 (看護総合), **30**, 106-108, 1999.
- 平松明子, 村山淑子他: 入職1年目ナースにみられた6ヶ月後のリアリティショックと対策に関する要因. 日本看護学会論文集 (看護管理), **30**, 93-95, 1999.
- 坂本富恵, 池下愛子他: 新人看護婦と2年目看護婦のリアリティショックに関する検討: Burnout得点を用いて. 三豊総合病院雑誌, **21**, 37-39, 2000.
- 根本則道, 熊坂一成他: 卒前教育におけるシンポジウム形式による学生の医学研究への興味と動機づけの試み. 医学教育, **28**(5), 359, 1997.
- 根本則道, 桜井勇他: 卒前教育におけるシンポジウム形式による学習法の導入: 学生の医学研究への興味と動機づけの試み. 医学教育, **29**(2), 101-105, 1998.
- 佐々木雅史, 河合由美子他: プリセプティからみたプリセプターシップの現状. 日本看護学会論文集 (看護管理), **30**, 133-135, 1999.
- 浅見多紀子, 岩崎いづみ他: S県内の看護職員にみられる Burnout の実態. 日本看護学会論文集 (看護総合), **30**, 109-111, 1999.
- 星野恵美子: 日々のかかわりの中での職場適応支援: 新人とのかかわりノートで事例を考える. 看護展望, **25**(5), 21-25, 2000.
- 武井麻子: 感情と看護: 人とかかわりを職業とすることの意味. 医学書院, 2001.
- 福田紀子: ナースのストレスとうつ状態. 臨床看護, **28**(8), 1230-1234, 2001.
- グレッグ美鈴: 看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築. 看護研究, **35**(3), 196-203, 2002.
- 袖山悦子: 卒業期学生への実習病院と学校の共同演習. 看護教育, **44**(2), 111-117, 2003.
- 稲垣美紀, 土居洋子他: 卒業前学部生の看護技術自己トレーニングの効果. 日本看護研究学会雑誌, **26**(3), 396, 2003.
- 西上あゆみ, 土居洋子他: 卒業前学部生の看護技術習得に関する学習姿勢と要望. 日本看護研究学会雑誌, **26**(3), 397, 2003.

(資料1)

今年度企画しました「既卒者からのアドバイス」「看護技術自主練習」が、就職準備に効果的だったかご意見を伺いたと思います。

よろしくご協力お願いいたします。

I. 当てはまるものに○をして下さい。

- 1) 年齢 ①20-24歳 ②25-29歳 ③30-34歳 ④35-39歳 ⑤40歳以上
 2) 一般学歴 ①高校卒 ②短大卒 ③大学卒 ④その他()
 3) 看護学校入学前の就業経験の有無 ①なし ②あり(年)

II. 「既卒者からのアドバイス」について当てはまるものに○をしてください。

- 1) 就職後に「既卒者からのアドバイス」を思い出したことがありましたか ①はい ②いいえ
 2) 「はい」と答えた方は、実際どのような場面で思い出しましたか
 ①情けなくなった時 ②きついことを言われた時 ③疲れていた時 ④何らかの失敗をした時
 ⑤患者様に励まされた時 ⑥患者様が喜んでくださった時 ⑦その他()
 3) 思い出した時にどのように感じましたか
 ①また頑張ろうと思った ②先輩の言ったとおりだと思った ③先輩の言っていた事は実際と違うと思った
 ④先輩のように頑張れないと思った ⑤その他()

III. 「看護技術自主練習」について当てはまるものに○をしてください。

- 1) 就職をするにあたって「自主技術練習」に参加しましたか。
 ①した ①と答えた方は 2)~5) ②しない ②と答えた方は 6)~8)
 2) 今振り返ってみて、就職への意識が高まり心構えや準備に役立ちましたか
 ①はい ②いいえ
 3) 就職後に役立ちましたか。
 ①はい ②いいえ
 4) 3)で「はい」と答えた方はどのような場面で役立ちましたか
 5) どの練習が役に立ちましたか
 ①経口与薬 ②注射(筋注・点滴) ③採血 ④無菌操作 ⑤寝衣交換 ⑥洗髪 ⑦酸素吸入 ⑧吸引
 6) 他に練習しておきたかった技術があったら具体的に記載してください。
 7) 参加しなかった理由をお聞かせください。
 ①日程が合わなかった ②練習したい項目が無かった ③就職してから覚えればよいと思った ④できると思った
 ⑤その他()
 ①と答えた方は、いつ頃だったら参加できましたか()
 8) 参加しておけば良かったと就職後に思いましたか
 ①思う ②思わない
 9) その理由を具体的に記載してください

IV. 就職後の状況についてお聞かせください。

- 1) 日常生活援助や、頻度の高い診療に伴う援助技術について困らなくなったのはいつ頃ですか
 ①5月 ②6月 ③7月 ④8月 ⑤9月 ⑥10月 ⑦11月 ⑧12月 ⑨今もまだ困っている
 2) 就職後に理想と現実のギャップを体験し衝撃を受けたことがありましたか
 ①あった ②無かった
 3) 2)で「あった」と答えた方はその場面を具体的に記載してください
 4) 2)で「あった」と答えた方はその時期を聞かせてください(複数回答可)
 ①4月 ②5月 ③6月 ④7月 ⑤8月 ⑥9月 ⑦10月 ⑧11月 ⑨12月
 5) 2)で「あった」と答えた方はどのように対処しましたか
 ①他者からサポートを受けた(師長・主任・指導係・プリセプターナース・プリセプターナース以外の先輩・同期・医師・家族・友人・教員) 当てはまるものに○をつけてください

②自分自身で努力した

③相談した

④その他 (

)

V. 以下の質問にお答えください。

- 1) 仕事は責任が重く、精神的に負担である。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 2) 患者あるいは患者家族に接することを負担に感じる ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 3) 患者の状態が判断できる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 4) 最近不眠がちである。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 5) 先輩は必要な時、すすんで援助・協力してくれる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 6) 便秘あるいは下痢になりやすい。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 7) 仕事が楽しいと感じる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 8) 自分のやりたいケアよりも診療介助に時間がとられる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 9) 私は医師に信頼されている。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 10) 自分は看護師に向いていないと思う。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 11) 職場の雰囲気はよい。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 12) 胃が時々痛む。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 13) 受持ち患者が多いと思う。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 14) 同僚は必要な時、すすんで援助・協力してくれる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 15) 患者急変時、何をしてよいかわからない。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 16) 新しい知識・技術の習得は楽しい。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 17) 職場の卒後教育は充実している。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 18) 記録は正確にわかりやすく書ける。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 19) 最近疲れやすいと感じる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 20) 私はチームの一員として認められている。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 21) 基本的な看護技術は1人で行う自信がある。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 22) 最近集中力が持続しない。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 23) 自分のチームの足を引っ張っている。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 24) 上司は、私に適切なアドバイスをしてくれる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない
- 25) 患者または家族とうまくコミュニケーションがとれる。 ④ そう思う ③ ややそう思う ② ややそう思わない ① 思わない

VI. 卒業時及び卒業後に、学校及び教員に期待することがあれば、その内容を具体的に記載してください。

ご協力ありがとうございました。ご活躍、ご健闘をお祈り申し上げます。